

時間の話

今年の全道大会では、試合中の時間について問題になったケースが何回かありました。例えば、一つのプレーが終わってから相当の時間がたっているのに、なかなかサーブを打とうとしなかったり、エンド交替の際、いつまでもベンチに座っていて、なかなか立ち上がるとうとしなかったり・・・テニスでは、試合中の時間の使い方について厳しいルールが定められています。ルールブックではそのことが「連続的プレー」という言葉で説明されていますが、中でも高校生が正しく理解しておかなければならないものは《20秒ルール》と《90秒ルール》の二つです。

《20秒ルール》とは、一つのプレーが終わったら20秒以内に次のプレーを始めなければならないというもの。《90秒ルール》とは、奇数ゲーム終了後のエンド交替は90秒以内に行わなければならないというもの。もちろんこの中には、ベンチに座って水を飲んだり、監督からコーチングを受ける時間も含まれています。ただしこれはベンチに座って90秒間たっぷり休憩してもいいという意味ではありません。本来ならチェアアンパイア（主審）がストップウォッチで時間を計り、60秒で「タイム！（時間ですよ）」というアナウンスを行います。選手はその合図で速やかにベンチを立ち、残りの30秒間でプレーを始めなければならないのです。しかし、空知支部大会のチェアアンパイアはストップウォッチを携帯していません。90秒は自分の体内時計で計って下さい。

《20秒》と《90秒》、この二つをうっかり不注意でオーバーしてしまった場合、チェアアンパイアから、「次にオーバーしたら失点になりますよ」という警告を受けます。コートそばで見ている先生（ロービングアンパイア）から注意を受ける場合もあります。これを「タイム・バイオレーション(Time Violation)」と言います。また、相手のペースを乱してやれなどと考えて、これを故意に（わざと）オーバーした場合は「不当なゲームの遅延行為」として、サッカーのイエローカードに相当する厳しい罰則が適用されます。これを「コード・バイオレーション(Code Violation)」と言います。

もう一つの「時間」は試合を始めるときの時間です。放送があってから5分以内に本部に現れない場合は《ノーショウ（無断欠場）》と判断され、そのチームや選手は失格になることがあります。また、前の試合が終わっているのに試合コートに現れない場合も同様です。・・・でも5分なんてホントは長すぎ。呼ばれたらすぐに、そして前の試合が終わったら即座に・・・です。試合の進行にご協力下さい。